

第5回eSailing全日本選手権大会決勝、日本オリンピックミュージアムで開催 リアル会場で熱戦。上位陣はWorld Sailing主催の国別対抗戦出場へ

日本セーリング連盟主催の「第5回eSailing全日本選手権」決勝シリーズが、9月15日（日）東京都新宿区の日本オリンピックミュージアムをリアル会場として開催されました。



日本オリンピックミュージアムで行われた決勝シリーズ ©JSAF

コロナ禍をきっかけに人気が高まったeSailing。気軽に参加・体験できることはもちろん、セーリング環境の再現性も高く、戦略・知識・技術が試されるようになり、いまやオリンピックセーラーも参戦するなど、国際的に熾烈な競争が繰り広げられています。そうした盛り上がりを見せる中、今年も、腕に自信のあるeセーラーが集い、新たな強豪プレイヤーを発掘、ナショナルチームの輩出・育成を行い、国際的な競技力を向上するため、第5回eSailing全日本選手権大会が開催されました。

本大会には学生を中心に全29プレイヤーがエントリーし、8月のランキングシリーズで上位10位に入った8プレイヤーがシード選手となりました。予選シリーズ8レースで21プレイヤーの中から11プレイヤーが勝ち抜き、決勝シリーズは19プレイヤーで5レースを実施、その後上位10プレイヤーで王者決定戦を3レース実施しました。

激戦を制し優勝したのは2020-21年度の全日本選手権連覇を果たした木暮俊貴（FUNe_KG-R）選手で、3年ぶりに王者に返り咲きました。2位は王者決定戦で逆転した古川悠航選手（FUNe_Yuko、横浜国立大学4年・体育会ヨット部75代主将）。3位はeSailing世界選手権通年ランキング1位となった高校生の宮前佳月選手（FSC_Kazuki、福岡セーリングクラブ・福岡第一高等学校）でした。



5年目にして初めて開設したリアル会場には11名のプレイヤーが全国から駆けつけた。

（前列左から2人目は熱戦を観戦した中村隆夫JSAF副会長）@JSAF

10月以降にWorld Sailing主催で開催される国別対抗戦（Nations Cup）には、本大会の上位者を中心とした日本代表チームが参戦します。また、eSailing世界選手権個人戦のグランドファイナルは欧州開催予定で、宮前佳月（FSC-Kazuki）選手、木暮俊貴（FUNe_KG-R）選手が進出します。

【木暮俊貴選手 優勝コメント】

今年は決勝がオンサイトでの開催で、参加者も増え、これまでとは少し違う雰囲気でした。日本全体のレベルが成熟しつつあるなかで、3年ぶりに優勝できたのはうれしいです。前回、前々回は準備不足により表彰台にすら立てませんでした。今回は他の大会も近く練習時間をたくさんとれていたのと、全日本チャンプの座からしばらく離れていたのが優勝への気持ちが高まっていたと思います。

また、昨年の優勝者であり、今年の世界選手権決勝でも戦うことになるFSC-Kazukiさんになんとしても勝ちたいという思いもありました。序盤はリードされましたが、第4レースと第5レースでスタート前にKazukiさんに近づいたり、接触したりしてミスを引き出したことで逆転につながりました。

今後もオンサイトでの開催と、この調子で第1回大会の参加人数を近いうちに超えることを期待しています。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人日本セーリング連盟 広報委員会 kohou@jsaf.or.jp

eSailing 委員会 e-sailing@jsaf.or.jp

<https://www.jsaf.or.jp/>